

ひとりひとりのなかに 図書館がある

「こどものほんだな」

わかば文庫」主宰

長谷川 幸男

西東京市の図書館サービスは、この五年間に育んだ実績・数値をみる

開館当時の下保谷図書館

昭和五十一年六月十五日、旧保谷市に初めての図書館が開館しました。市民が待ちに待った図書館です。家庭文庫や読書サークルに携わる人たちが開館準備の応援に駆けつけてくださいました。

市民のための図書館ということ念頭に置き、名称も「市立図書館」としないで「市図書館」としました。

開館日、書架には新しいぴかぴかの本が並んでいましたが、多くの利用者に貸し出されてすぐにスキスキの書架になってしまいました。

子どもたちは寝転び台に腰掛けたり、上がりこんだりして絵本を見ていました。今は寝転び台も取り払われ書架が並んでいます。当初、5万冊にも満たなかった蔵書も今では7万冊を超え、三十年前のゆつたりとしたスペースはなくなりましたが、こじんまりと整った図書館になってきています。

かぎり膨張して、公立図書館としてのしたたかさを誇示しはじめたかにみえます。
喝采は惜しみませんが、次の事項に心配りを！

◆
一つは、職員および施設の創造力ゆたかでないやかな気質と、メデイ

開館から三十年、建物も古くなりましたが、昔からの常連さんが足繁く通っています。敷地内の桜も年輪を重ね、満開に花ひらいたさまは見事なもので、緑も豊かな環境抜群の図書館です。

平成二十年四月、保谷駅前図書館(仮称)として移転予定です。



中央にあるのが寝転び台

アとしての図書館資料(人間がつくりだす知的財産のすべて)への謙虚さが希薄になることのないよう組織を維持してくださることをねがっています。

二つは、児童文学作家の寺村輝夫さんと出会って、旧田無市の図書館建設にかかわったのですが、その寺村輝夫さんは、この五月二十一日に他界されました。三十年前に、たぎらせた熱情の火を絶やさないでいただけたらとねがっています。「ひとりひとりのなかに図書館がある」というメッセージとともに……

◆
三つに、図書館は、図書館法に則つて、西東京市が設立した公立図書館です。そして、図書館は、社会教育法、教育基本法、日本国憲法の精神を具現した民主主義を機能させる社会教育機関です。その意味で、図書館サービスを展開するにあたって、真実を求め市民が中心にあるように心がけてほしいとねがっています。

◆
むしろ、私事ですが、この夏に、図書館の原点となった「こどものほんだなわかば文庫」を再開庫して、地域から西東京市の図書館の将来を問い続けようと思います。

編集後記

図書館三十周年の記念特集号をお届けします。おふたりの利用者、西東

京市在住の前戸板女子短期大学教授、旧田無・保谷市時代の初代図書館長や退職された職員の皆様から図書館への励まし、提案、要望などをお寄せいただきました。感謝を申し上げます。

図書館では、昨年の八月をスタートとして、三十周年を祝う催しを行ってきました。槇坪映画監督講演会、大人のための朗読会、地租改正絵図や写真の展示会、下野谷遺跡講演会、スタンプラリーなどなど。お楽しみいただけましたでしょうか。

昭和五十年八月二十三日に旧田無市立中央図書館が開館しました。この年の春、開館を待つ図書館の周りは鮮やかな黄色の花をつけたタンポポの群落で彩られていました。八月に、図書館は三十一歳になります。

市民のお役に立つ図書館を目指し私どもは努めています。皆様からいただいたご要望は、サービスにかかわるもの、資料にかかわるもの、施設にかかわるものなど多様です。皆様のご期待に応えて、図書館は変わり続けていくことができるはず

です。
図書館では今、十年先を想定してサービスや施設などの充実に取り組んでいます。何よりも利用する皆様の思いによって、図書館は育まれて長していくものだと思います。これからも皆様のご支援をよろしくお願ひします。